

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.641

★「上野の森 親子ブックフェスタ」詳細(2頁)

★東京子ども図書館 コロナ禍の一年(5頁)



テントの中から

「子どもの読書週間」によせて

〔柳大日本絵画 常務取締役
「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員〕

おがわだいすけ
小川大輔

私がイメージする「上野の森親子ブックフェスタ」は、

ゴールデンウィークの五月晴れの下、出版社テントに並んだ絵本を選ぶ親子連れのお客さままで会場が埋めつくされる、そんな光景です。

私がこのイベントにはじめて参加したのは、まだ入社間もないころで、とっておきのしかけ絵本『あかまるちゃん』を弊社のテントに訪れるお客さまに紹介していました。このしかけ絵本は、赤い丸がページごとにひとつ隠されていて、それを見つけていくのですが、最初のページは見つけるのがなかなかむずかしく、見つかるまで「おー！ あつた！」など驚きの声が上がると、そんなやり取りをお客さまと

楽しんでいました。

最近では、出版社テントの中で、著者の方々もイベントやお見かけします。なかにはたいへん有名な方も来ていて、弊社のテント内では「有名なうさんがいたよ」なんて会話をしています。

「上野の森親子ブックフェスタ」には著者、出版社、読者の方々すべてが揃っていて、そこで新しい出会いや、いままでの親交を深めてくれる、すばらしいイベントだと感じています。

そんなイベントが昨年の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止を余儀なくされました。そこで緊急事態宣言の中で、「#GWは本の隣で」というテーマで、いままでも

野の森に関わってきた方々がツイッターでいろいろな絵本を紹介しました。

本年度も残念ながら開催の見あわせとなりましたが、上野の森親子ブックフェスタ運営委員会は、このような困難な状況下だからこそ、読書を通して「生きるすばらしさ」を恒常的に伝えていかなければならないと考え、今後の新たな読書推進運動の在り方としてオンライン上で「上野の森親子ブックフェスタ」を開催することとしました。

このオンラインイベントは、コロナ禍で絵本の展示販売はむずかしいけれども、以前から行っていた東京都美術館での講演会をライブで配信するものとしました。この運営委員会の呼びかけに多くの

方々からご賛同をいただき、5月3日～5日の3日間、合計で6コマの講演会を配信する運びとなりました。内容は、大友剛さんの「読み聞かせ」&マジックショー、いとうみくさん&王藤順子さんの「対談」、たかまつなさんの「笑って学ぶSDGs」、JPIC読書アドバイザークラブ(JRAC)の「親子で読んでほしい絵本大賞発表」、深谷圭助さんの「辞書引き学習イベント」、あんびるやすこさんの「あんびるやすことっておきのはなし」の講演会を予定しています。このオンラインイベントは、場所の制限がないところが魅力で、いままでも上野に行きたくても行けなかった方々が「上野の森親子ブックフェスタ」にふれられる絶好の機会です。

オンラインイベントを通じて「上野の森親子ブックフェスタ」の新たな魅力を知ってもらい、また以前のようにテントの中からみなさまとのふれあいができることを願っております。

2021

上野の森 親子ブックフェスタ

5月3日(月・祝)4日(火・祝)5日(水・祝)

11:00~12:30 / 14:30~16:00

東京都美術館 講堂

最寄駅: 上野(JR線・京成線・東京メトロ)

親子で楽しめる、絵本や読書に楽しむための講演会を開催!
全国どこからでも、オンラインでも参加いただけます!
東京都美術館講堂でご参加の方は、
サイン本も購入いただけます!

「上野の森 親子ブックフェスタ2021」講演会

全国どこからでも参加できる オンラインでも同時配信!



上野の森
親子ブックフェスタ
公式サイトは
こちら

5月3日(月) 11:00~12:30

「マジックと音楽と絵本の世界」

大友 剛 さん(ミュージシャン、マジシャン、翻訳家)



5月3日(月) 14:30~16:00

「対談 児童文学よもやま話」

いとうみく さん(児童文学作家)

工藤 純子 さん(児童文学作家)



5月4日(火) 11:00~12:30

「お笑い芸人たかまつななど
笑って学ぶSDGs」

たかまつな さん(お笑いジャーナリスト)



5月4日(火) 14:30~16:00

発表!【第2回 親子で読んでほしい絵本大賞】

~「聞かせ屋、けいたろう」と素敵な仲間たち~

聞かせ屋、けいたろう さん(読み聞かせ師、絵本作家)

JPIC読書アドバイザークラブ(JRAC)



5月5日(水) 11:00~12:30

「子どもの言葉の力を育む「辞書引き学習」の
これまでとこれから」深谷 圭助 さん(中部大学現代教育学部教授、
「辞書引き学習」開発者)

5月5日(水) 14:30~16:00

「あんびるやすこ講演会 とっておきのおはなし」

あんびるやすこ さん(児童文学作家)



関連動画も公式サイトで公開中! 「上野の森ブックフェスタ」で検索!

(このイベントは新型コロナウイルス感染症予防のため、東京都感染拡大防止ガイドライン・台東区新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインに即して運営します。)

【会場参加される方へのお願い】

- 当選通知メールに添付する「質問表」への記入、当日の持参
- 受付時の検温、マスクの着用、会場入り口での手指の消毒
- 接触確認アプリ(COCOA)の事前インストール

※サイン本ご希望の方は、事前のお支払いいただき、
入場時のお渡しとなります

【スタッフの取り組み】

- 会場の定員に対し、50%以下に絞っての開催(座席の間隔を十分確保)
- 定期的な換気、受付の消毒を実施
- 受付時のスムーズな対応
- スタッフのマスク着用

上野の森親子ブックフェスタの
公式Twitterです。



上野の森親子ブックフェスタ2021の開催情報をお知らせしています。

「#上野の森親子ブックフェスタ2021」では、講演会の開催情報のほか、関連動画をご覧ください。

新しい本との出会いの場を
お届けします。



「#GWは本の隣で」では、この時世だからこそ読んでほしい、おすすめ絵本や児童書などを出版社・作者から紹介しています。
「#GWの推し本語り」は、好きな本やおすすめの本を読者の皆さんから発信いただけます。

主催: 子どもの読書推進会議 日本児童図書出版協会 一般財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC)
後援: 国立国会図書館、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、東京都教育委員会、台東区、公益社団法人全国学校図書館協議会、公益社団法人読書推進運動協議会、
一般社団法人日本国際児童図書評議会、一般社団法人日本雑誌協会、一般財団法人日本児童教育振興財団、一般社団法人日本児童出版美術家連盟、
一般社団法人日本児童文学者協会、一般社団法人日本児童文藝家協会、一般社団法人日本出版取次協会、一般社団法人日本書籍出版協会、YA出版会、
一般社団法人上野観光連盟、日本書店商業組合連合会、公益社団法人日本図書館協会、日本図書普及株式会社、文化産業信用組合、公益財団法人文字・活字文化推進機構
協力: 上野の山文化ゾーン連絡協議会 (以上、予定)

※講演会はオンライン配信のみとなることがあります。

講演会は会場開催とオンライン配信で行います。どちらも参加費は無料です。
(新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンライン配信のみとなります)
公式サイト <https://ueno-bookfesta.jp/>

■「第32回 読書感想画中央コンクール」

読んだ感想を絵にするまでの「作画感想」がさらに読書を深める

1月29日(金)、「第32回 読書感想画中央コンクール」(主催：全国学校図書協議会)毎日新聞社ほか)の中央審査会が開催された。

今回の参加校数は5889校、応募作品は61万3807点。中央審査会では各都道府県代表の539校から、文部科学大臣賞4名、優秀賞8名、優良賞16名、佳作4名が選ばれた。

2月下旬に予定されていた表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。賞状・副賞は受賞者在籍校へ送付された。このコンクールでは、絵だけではなく、同時に提出される「作画感想」も選考対象として重要視されている。今回の文部科学大臣賞受賞作と作画感想を紹介しします。

【第32回 読書感想画中央コンクール 文部科学大臣賞(4名)】

○小学校低学年の部

「きらきらトンボ」沖永真央さん(愛媛県喜多郡内子町立内子小学校3年)

・対象図書「とんぼ：ぎんやんま

の一生新版(福音館書店)

・作画感想

わたしは、とんぼがすきなのでこの本をえらびました。とんぼがとんでいる時の羽のあみ目もよや顔のようが細かいので、びっくりしました。そこでそれを中心にがんばってかいてみようと思いましたが、一まいの羽の中をくぎって、色を分けてぬりました。明るい色でぬつたので、きれいなとんぼになったと思います。まわりに自分やこん虫をいっぱいかいて、さらに楽しい絵になったと思います。



「きらきらトンボ」沖永真央さん

「太陽からのメッセージ」門馬 幸さん



○小学校高学年の部

「太陽からのメッセージ」門馬幸さん(福島県二本松市立旭小学校6年)

・対象図書「太陽ってどんな星？」(新日本出版社)

・作画感想

この絵は、「太陽」が地球にもたすことをまとめた物です。「太陽フレア」がドットとでる先に、オーロラや縄文杉など、太陽を知る物がある、ということを表しています。初めてこの本の縄文杉や水のコア、オーロラから太陽について知れるというところを読んだ時、太陽と研究者の人ってすごい!! と思いました。難しかったのは、太陽とオーロラです。太陽のグラデーションやオーロラの折り重なる感じを表すのが難しかったです。

○中学校の部

「希望」長濱 渚さん(秋田大学教育文化学部附属中学校1年)



「希望」長濱 渚さん

・対象図書「戦場の秘密図書館…シリアに残された希望」(文芸春秋)

・作画感想

「体が食べものを必要とするように、魂には本が必要なんです。」というアナスの言葉は私の心に深く残りました。彼らは本能的に本を求めているのだと。本はすべての人に平等だということもこの本で学びました。私たちが身近に本を読める喜びを改めて感じることもできました。この絵の階段は地下室への階段でもあり、明日への道でもあります。周りがモノクロなのに図書館が色鮮やかなのは本のおかげだと思いませんか。

○高等学校の部

「紅型に染まる」佐野美奈木さん(香川県立高松工芸高等学校2年)

・対象図書「よみがえった奇跡の

紅型(あすなる書房)

・作画感想

戦争など過酷な状況の中でも、紅型に魅せられ復活させようとする人々にとても心をとられた。この本に興味を持ち、この絵を描いた私も、紅型そして沖繩に魅せられた一人なのだと思います。紙に描くのは私がこの本を読んだ感動が伝わりづらく無機質な感じがしたので、布に描きました。また、紅型復活までの歴史を二筆描きで、全てが繋がって紅型があるということ表現しました。(作画感想の表記は原文のままとしています)

入賞作は読書感想画中央コンクール公式ホームページに作画感想とともに掲載されています。

●読書感想画中央コンクール公式ホームページ
https://www.dokusyoyokansoubun.jp/kansouga/index.html



「紅型に染まる」佐野美奈木さん

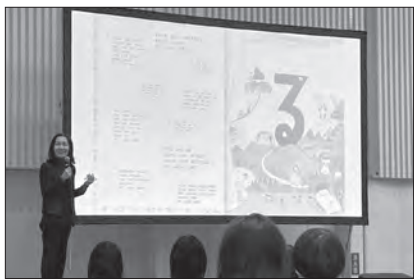
■「絵本ワールドinにいがた」開催

安心のコロナ対策で 会場には笑顔がいっぱい!

3月27日(土)新潟県新潟市の朱鷺メッセで「絵本ワールドinにいがた」(主催「新潟日報社」)が開催された。

コロナ下とあって、今回は会場にはウェブサイトで事前の予約が必要。受付での検温・消毒、マスクの着用なども徹底され、広い会場も密を感じさせない。同時に子育てイベント「asshママ&ベビーフェスタ2021」が開催されたこともあって、家族連れが安心して訪れていた。

メイン会場のスノーホールでは絵本作家・翻訳家の石津ちひろさ



詩や絵本、ことば遊びが楽しい石津ちひろさんの講演会

んの講演会「絵本のたのしみ・言葉のたのしみ」が行われた。

「ことばの魔術師」石津さんらしく、詩の朗読やお客さんからお題を募集して瞬時に回文を作ったりと、ことばの魅力あふれる講演となった。最後は自作の詩を朗読してことばの力について語り、「ことばに救われることも多い」「ことばにふれて元気になる」と締めくくった。講演後のサイン会では、読者がソーシャルディスタンスを取って長い行列をつくった。

他会場の「読み聞かせのお部屋」では新潟市立中央図書館、絵本読み聞かせの会ほんぼとり、新潟県立図書館による絵本の読み聞かせ、新潟かみしばいクラブによる紙芝居、新潟県立図書館によるペーパーサートなどが一日を通じて行われた。また「ワークショップのお部屋」では、新潟県立大学の先生や学生によるワークショップが開催された。
このほか、会場の一角には絵本の展示販売「子どもの本大展示」のコーナーが設けられた。

■「国際子どもの本の日」記念

オンラインで作家・ 翻訳家と交流! ワークショップも実施

4月2日「国際子どもの本の日」を記念して、日本国際児童図書評議会(JBBY)は「子どもの本の日フェスティバル」を、3月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)と5日間にわたり、オンラインで開催した。今年のテーマは「つながる・ひろがる 子どもの本の世界」。

20日の翻訳体験ワークショップ「絵本を翻訳してみよう」では、参加する中学生・高校生が課題文の訳を事前提出、講師のこだまともこさんからアドバイスを受けた。また、小学校高学年・中学生を対象とした『ほんとうの願いがかなうとき』読書会、翻訳家と話ししてみよう』では、課題本の感想や、翻訳者の中野恰奈さんへの質問で、読書を深めた。

21日の「オンラインリレー★絵本作家とあそぼう!」では、田島征三さん、田中清次さん、垂石眞子さん、長野ヒデ子さん、降矢ななさん、角野榮子さんが自由な



今年の「国際子どもの本の日」ポスターはホジェル・メロさんのイラスト

トークを展開。ブラジルから国際アンデルセン賞画家のホジェル・メロさんも参加した。

27日は、小学校3〜6年生の参加者が事前に提出した「変身」をテーマにした短いおはなしに、安東みぎえさん、山本悦子さん、吉野万理子さんがコメントをするワークショップ「お話をつくってみよう」児童文学作家のミニトーク」と、一般対象の「岩瀬成子講演会『ずっと子どもを書いてきました』。岩瀬さんは、子ども時代や児童文学との出会いを紹介し、「子どものとき、ことばにならず、もてあましていたものを、私は宿題のように抱えこんでいる。だから、子どもを書かざるを得ないんです」と、創作の原点を語った。岩瀬さんとともに今年の国際アン

デルセン賞候補に推薦されている荒井良二さんも登場し、「岩瀬さんは大好きな作家。『ステゴザウルス』の仕事をお願いしたときは、本当にばくでいいんですか?と緊張した」と裏話も披露した。

28日のワークショップ「紙コップのマリオネットを作って絵本を楽しもう!」は4歳〜小学生が対象。紙コップなどの材料を参加者が各自用意し、講師の指導で工作。また、『ぞろりぞろりとやさいがね』の読み聞かせを、音楽とあわせて楽しんだ。

最終日の29日は科学遊び「チャレンジ!紙の橋を強くするには?」。小学生以上の子どもたちが、講師の話を参考に、コピー用紙やティッシュボックスを使つて、丈夫な形の橋作りに挑戦した。

■公益財団法人東京子ども図書館 コロナ禍の一年

離れていても本とおはなしの温もりを

公益財団法人東京子ども図書館 吉田 真理

東京子ども図書館は、子どもと本の幸せな出会いを願って活動している私立図書館です。

ふだんは、児童室に来る子どもにも職員が読み聞かせをし、「おはなしのじかん」「わらべうたの会」も設けています。大人向けに資料室の運営や講座の開催なども行ってきましたが、昨年2月下旬以降、このような人と直接関わる活動が不可能となったのは、私たちがとって大変つらいことでした。しかし、全国の学校が休校となり、毎日自宅で過ごすさなげれば

ならない子どもたちやその保護者を見て、なにもしないわけにはいかなないと、手探りでできることを始めました。

◆よみきかせ動画配信

昨年2月29日より、緊急の試みとしてYouTube動画「東京子ども図書館 おはなし配信」を始めました。読み聞かせの作品は、当館の出版物『愛蔵版おはなしのろうそく』『収録の世界の昔話と、絵本』『うれしいさんかなしいさん』です。ブックトークは、各出版社から許諾を得てお届けしました。

Instagramでの情報発信
3月末に当館も全面休館。緊急事態宣言発令後の4月8日より、在宅勤務でもできることをと、育児中の世代が多いSNSでおすすめの児童書をひとり冊ずつ、リー形式で紹介しました。子どもと読んでみたい、職員を身近に感じられたなどのコメントをいただきました。

◆子どもたちへの「おたより」と「文通企画」読書キャンペーン

職員が動画を撮って公開するのは初めて。読み手にとっては、見えない相手を想像して話す緊張感もありましたが、読んでもらっている雰囲気や伝わるよう心がけました。10本の動画を撮影し投稿。反響は大きく、全国の休館中の公共図書館からのリンク依頼、マスコミ取材を多数受けました。視聴者から、気持ちを落ち着かせてくれる、毎回家族で楽しんでいるな

一方、直接関わってきた子どもには、手の温もりを感じられる方法でアプローチしたいと考え、休館中の4月中旬、児童室と分室のかつら文庫に通ってくれていた子に、おたよりを郵送しました。スタッフのメッセージとおすすめ本家でできる遊びを紹介しました。



YouTube 動画の配信には全国から大きな反響があった

7月からは制限を設けつつ開館を始めましたが、短時間滞在のため、ゆっくり子どもと話せません。

そこで考えたのが「東京子ども図書館の人と文通しましょう」という企画。近隣の学校に広報したところ、常連の子をはじめ、当館にきたことなかった子が、本や生活のことなどについて手紙をくれ、やりとりのあと、実際に来館してくれたこともありました。

また11月より、短時間でも楽しく本と出会えるよう「ふくろの中は○○○の本?」——よんであげよう!○○○と題した福袋形式の「読書キャンペーン」を展開。ある共通点をもつ3冊を袋に入れて用意し、子どもに選んで借りてもらい、共通点を当てる趣向です。

◆ライブ配信での催し

大人向けの講座などは、8月に「ブックトーク・ワークショップ」



視聴者の反応を画面越しに感じながらのブックトーク

「ブックトーク祭り」をZoomによるライブ配信で開催しました。初めてのライブ配信で、ネット環境や機材の制約もあるなか、担当者はリモートの打ちあわせも交え、準備に多くの時間と労力を注ぎました。参加者からは、実演者や本が目の前に見え特等席のような満足感があった、親密な気持ちで聞いた、との感想をいただきました。

その後2020年度は、ライブ配信で1件の催しを行いました。講師が海外から行う講演や、海外からの参加もありました。

大人のためのお話は9月より少人数制で再開。少人数の来場形式で行っていましたが、感染者数増加で、2回のみで中断しました。

また活動資金を得るため、松岡享子名誉理事長と職員の手作り品販売をカタログやオンラインで実施。財政状況が厳しくなった年末には期間限定の寄付サイトも設け、多くのご支援をいただきました。

私たちは、ひとりひとりの子どもとていねいに接し、おはなしや本のおもしろさを伝えることを大切にしています。日々成長する子どもが、楽しみのうちに本と出会う手伝いを、どんな状況でもできるように、よりよい方法を模索していきたいと考えています。

ちひろ美術館 展覧会

赤羽末吉、田畑精一の原画から
絵本への思いを感じる展覧会

いわさきちひろ記念事業団は、安曇野ちひろ美術館（長野県松川村）で展覧会「生誕110年 赤羽末吉展 絵本への一本道」（5月30日まで）を、ちひろ美術館 東京（東京都練馬区）で展覧会「没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展」（6月13日まで）を開催している。



【左】赤羽末吉「かさじぞう」(福音館書店)より 1961年(部分)
【右】田畑精一「おしいれのぼうけん」(童心社)より 1974年

研究者の赤羽茂乃さんの講演会「赤羽末吉の人生と絵本―大陸と雪国」も開催。この講演は後日オンライン配信が予定されている。また、5月29日〜6月30日には銀座教文館ウエンライトホール（東京都中央区）で展示「スーホの草原にかけの虹」（共催）教文館も開催。『スーホの白い馬』の全場面などが高精度な複製画ピエゾグラフで展示される。

東京館の田畑精一展では、代表作『おしいれのぼうけん』の原画とともに作家・画家・編集者が三位一体となった絵本づくりについて紹介。4月25日(日)には同書の編集者、酒井京子さんのオンライン講演会「田畑精一さんと絵本づくり」も開催される。

東京館ではこのあと、6月19日より安曇野館とテーマを変えた「生誕110年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら」が、開催される。詳細な内容、講演会の申し込みや配信状況はちひろ美術館まで。

●ちひろ美術館ホームページ
<https://chihiro.jp/>

優良読書グループの歩み (4)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

小山子どもの本連絡会

代表者 作山 昌子

栃木県小山市

〈推薦〉
栃木県読書推進運動協議会

当会は1995年、小山市とその周辺地域で子どもと本の「つなぎ手」として活動する団体や個人が、小山市立中央図書館と連携し、相互の交流と研修を深め、子ども

また、当会と所属会では中央図書館とふたつの分館での月例おはなし会（協力含む）のほか、小学校10校（協力含む）、中学校4校、義務教育学校1校、学童保育クラブなどでもおはなし会を行っており、会全体で年間130回前後のおはなし会を行っています。学校のおはなし会は、当会と所属各会の年間計画に基づいて、会員おのおのができる範囲で協力を申し出、各校ごとのまとめ役が調整を行ないます。会は役員会、運営会義（役員と各会代表が参加）など必要時に小規模な打ちあわせを開いて運営し、会員の情報共有手段として通信紙（月1回）と広報誌（年2回）を発行しています。これはコロナ禍にも対応しやすい運営方法

でした。所属会によっては遠隔会議で会員の交流を維持している団体もあります。今年にはコロナ禍で研修会が実施できていませんが、より直接的に子どもたちに本を渡すため、中央図書館主催「令和2年度『子ども本の福袋 わくわく貸し出しセット』」事業に共催として参加し、好評を得ています。マスクやフェイスガードを着用して再開したおはなし会では、身



勉強会「どの絵本読もうかな」は会員外でも参加可能

上越音声記 マザーテープの会

代表者 齋藤久美子

新潟県上越市

〈推薦〉

新潟県読書推進運動協議会

当会は、1978年に、朗読講座受講者の方々が、「朗読奉仕の会」を結成し、当時上越市（高田）にあった真字校の生徒さんへの対面朗読や録音図書をお届けする活動からスタート。その後さまざまの変遷を経ながら、録音図書作成を中心に活動して42年目になります。

盲学校閉校後1992年から、それまで作成した録音図書は高田図書館に移管され、その後作成した録音図書も含め、保管、貸し出しなど、さまざまな面で高田図書館さまのご支援のもと活動を継続できています。

ここ10数年は、カセットテープレコーダーからパソコンでの録音となり、CDとして作成する録音図書を年間約50タイトル作成。2020年11月現在、CDが約950タイトル、それ以前のカセットテープを含めると約1800タイトルが貸し出し可能です。

現在会員は40代から80代の23名で、会長・副会長・庶務部・研修部・会計といった役割を決め、全員が協力して会の運営にあたっています。

日常活動は自宅でパソコンに向かった個人作業になります。具体的には、担当する本について語句を調べたり、図・絵・写真・表の読み方を考えたりする「調査」から開始。つぎは、読む速さ、高さ、区切り方、アクセントに配慮しながらの「録音」になります。その後、会員相互の「校正」を経て完成となります。この活動は、視覚に不自由のある方々の「目のかわり」ですから、責任をもって、正しく伝わるように読むことがな



仲間との情報交換、交流が個人での作業を支える

より大切です。時間のかかる活動ですが、一冊の本と深く関わることで、読むことは楽しく、やりがいのあるボランティア活動だと感じています。

個人での作業が中心ですが、毎月1回、会員が集まる定例会を実施しています。いつも和やかな雰囲気で見聞を話したり、質問しあつて情報交換し、毎回テーマを決めて研修し、質のよい録音図書づくりをめざしています。

今後も、聞いてくださる方の笑顔を思い浮かべながら、地道に活動を継続していきたいと思えます。

おはなし宅急便

代表者 中島 千枝

佐賀県杵島郡大町町

〈推薦〉
佐賀県読書推進運動協議会

大町町には義務教育学校「大町ひじり学園」があり、1年生から9年生まであわせて400名くらいの生徒がいます。この大町ひじり学園で読み語り活動をしているのが「おはなし宅急便」です。

「おはなし宅急便」が立ちあがったのは1998年です。途中、メ

町内外のさまざまな立場の人たちが参加！



語りを年間25回前後、1年生のおはなし会・6年生のおはなし会を年1回ずつ、メンバーとの情報交換会を年に2回です。

私たちはボランティアなので、必要とされなければ活動できません。つねに学校とコミュニケーションを取り、必要とされる活動を心がけています。現在の窓口は大町ひじり学園の副校長先生です。特に今年度は、新型コロナウイルス感染症のこともありましたので、対策なども何度も話しあい、活動を再開いたしました。

メンバーが減って活動が危ぶまれることもありましたが、活動の仕方や学校との関わり方を見直し、学校の先生方や、たくさんの方のご協力を得て、現在まで続けることができました。

私どもの活動がきっかけとなつて、子どもたちが本を好きになつてくれたら、たくさん作品や作家と出会つてくれたら、読み手である私たちとの絆を深めてくれたら……と思つています。

今年度のメンバーは、町内・町外のボランティアのみならず、PTA学年部員、人権擁護委員会、大町町教育長、大町町教育委員会、地域おこし協力隊の方も参加していただいています。例年25人前後での活動です。年に1回だけの参加でもいいし、お仕事が休みのときだけの参加でもかまいません。できるだけたくさんの方に参加してもらいたいと思つています。

活動内容は、木曜日の朝の読み

昨年度、子どもたちからお手紙をいただきました。「いつも読み語りを楽しみにしています」「本を読むようになりました」「体気をつけてがんばってください」など、たくさんさんの思いの詰まつた、心のこもつた手紙でした。とてもうれしかったし、活動してきてよかったという気持ちになりました。これからも、たくさんさんの仲間と楽しみながら活動をしていきたいと思えます。

2021・第75回 読書週間

ポスターイラスト募集

標語は「最後の頁を閉じた 違う私が出た」



2017年 有賀千華さん



2019年 富山涼太さん



2018年 さとうみずずさん



2020年 なかいかおりさん

- 秋の「読書週間」のシンボル、ポスターのイラストを募集します。ポスターイラストを使ったPR広告も、各種雑誌に掲載予定です。
- 賞
- ・大賞(1名)……賞状と賞金10万円
 - ・優秀賞(3名)……賞状と賞金1万円
 - ・入選(10名前後)……記念品(図書カード)
- 応募要項
- ①標語「最後の頁を閉じた 違う私が出た」をイメージした未発表の創作原画 *「読書週間」などの文字情報は作品に入れないこと
 - ②サイズ B4判、タテ
 - ③用紙・画材 自由
 - ④CG作品はプリントアウトしたもの
 - ⑤カラー、モノクロとも可。立体、

- ⑥応募資格 高校生以上。合作は半立体、写真、コピーは不可
- ⑦ハガキ大の用紙に以下を明記し、作品の裏面に添付のこと
- ⑧応募締切 6月25日(金)必着
- ⑨送り先・問い合わせ先 千101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階
- ⑩発表 8月上旬、入賞者に通知
- ⑪入賞作の二次使用権は公益社団法人読書推進運動協議会に帰属
- ⑫作品は返却しません。返却希望の方はその旨を明記し、手数料として切手500円分を同封のすること

事務局報告(3月)

- ☆3日 上野の森親子ブックフェスタ オンライン開催挨拶のため、台東区役所、東京都美術館を訪問
- ☆5日 上野の森親子ブックフェスタ オンライン開催挨拶・協賛依頼のため、一般財団法人 日本児童教育振興財団を訪問
- ☆8日 天震災出版対策本部 運営委員会 出席
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」640号 入稿
- ☆9日 機関紙「読書推進運動」640号 責了
- ☆15日 機関紙「読書推進運動」640号 出来
- ☆15日 「第63回 こどもの読書週間」ポスター出来、順次発送開始
- ☆17日 上野の森親子ブックフェスタ 運営委員会出席(ビデオ会議)
- ☆23日 とうたかすひさんと「子ども読書の日」ポスターについて打ちあわせ
- ☆25日 文部科学省に令和3年度「新しい生活様式」などを踏まえた読書活動の推進 事業審査表を提出
- ☆26日 内閣府より公益的事業の「大震災出版復興基金の口座管理」廃止の変更認定を受ける
- ☆26日 大震災出版復興基金の残金を公益社団法人 全国学校図書館協議会募集の使途特定寄付金に寄付
- ☆27日 JBBY 岩瀬成子 講演会(すつと子ども)を書き進めました
- ☆27日 オンライン参加
- ☆27日 「絵本ワールドin いがた」に出席

編集部 & 事務局の ひ・と・こ・と

●講演会での「子ども時代のことばにならなかつた思い、怒りを書かざるを得ない」という岩瀬成子さんの話を聞いて、思い出したことがあります。

●昨年の夏、緊急事態宣言が解除されてから、3か月ぶりに両親、弟一家と実家で食事をしました(実家、弟宅、私の家は半径500メートル以内)。あり、集まるのが日常。5歳の姪は久しぶりで過ごしていたのですが、興奮して少々動作が大きくなり、手をふった拍子におばあちゃんを軽くたたいてしまうアクシデント発生。「あ、おばあちゃんぶつた! ごめんなさいは?」と言われた途端、わーっと泣き出してしまいました。

●大人たちも、決してわざとではないとわかってはいるので、強い調子で注意したのではありません。失敗を恥ずかしくする子なので、間違いを指摘されると泣き出すことが多い姪ですが、この日の泣き方は違いました。わざとではなかったこと、今日みんなが集まることを楽しみにしていたことをつたないながらも説明し、「○○ちゃんだった、いろいろガマンばっかりだったんだよ!」と言ったあとは、ただ大泣きするだけでした。コロナ禍の中、ことばにならない思いが、姪のなかにパンパンにふくらんでいたんでしょう。

●姪が岩瀬さんのように、自分の思いを突きつめて表現する大人になるとは思えませんが、いつかあのとときの「いろいろガマン」の中身を聞いてみたいと思います。(伸)